熱戦 悪天候に負けず

第103回 全国高校野球選手権 鹿児島大会
主催／朝日新聞社・県高野連

4校 準々決勝へ

8強にまず4校が名乗り―。鹿児島大会は11日目の13日、3回戦が始まった。雷の影響で試合の進行が遅れたが、鹿屋中央、神村学園、樟南、尚志館がベスト8に勝ち進んだ。14日は3回戦の残り4試合が行われる。

神村学園―鹿児島玉龍　一回裏鹿児島玉龍2死三塁、山下が3点目となる中前適時打を放つ＝平和リース

流れ呼び込んだ出塁への意地

鹿児島玉龍・永仮晃大選手

鹿児島玉龍は1、2番が塁に出て得点するのが得意の攻撃パターン。昨夏の覇者、神村学園相手に鍵を握るのが1番の左打者、永仮晃大選手（3年）だ。

初回から流れを呼び込んだ。対するは今大会注目の左腕、泰勝利投手（3年）。140㌔を超える速球と鋭い変化球が武器だが、不安定な立ち上がりの球を見極め、四球で出塁した。

三塁に進むと4番の犠飛で生還。本塁を踏んで「チームに勢いをつけられた」と拳を握った。打線はボークで追加点。さらに適時打が飛び出し、初回に3点を先行した。

だが、相手は強打のチーム。三回、満塁本塁打で試合をひっくり返され、追いかける展開になった。

高めの速球を捨てて低い球狙い。しかし、立ち直った泰投手に三振の山を築かれた。永仮選手も変化球に対応できず、二、七回に三振を喫していた。

八回、好機で打順が巡ってきた。2点を返し、3点差。なお2死満塁。長打が出れば同点だ。

「低めをたたいて後ろにつなぐ」と立った打席。2球で追い込まれ、最後は「低い真っすぐ」を狙ったが、外の140㌔の球にバットは空を切った。

大会前、試合で足首を故障していた。谷口裕司監督は「打撃の調子が最後まで戻らなかったのかもしれない」と思いやった。

「あのチャンスで一本打ちたかったので悔いが残る」と永仮選手。試合はノーヒットに終わったが、仲間と接戦を勝ち上がってきたことに「いい夏でした」ときっぱりと言った。

（仙崎信一）

◇平和リース
▽3回戦

神村学園	0	0	5	0	0	1	0	2	0	8
鹿児島玉龍	3	0	0	0	0	0	0	2	0	5

⑪…神村学園が2本の本塁打を放ち勝利した。3点を追う三回、中島の満塁本塁打など4長短打で5点を挙げ逆転。鹿児島玉龍は一回に先制し、八回に2点を返したが後続を断たれた。

薩南工	0	1	0	0	0	0	0	0	1
尚志館	1	0	0	2	0	0	3	2	8

（8回コールド）

⑫…尚志館が10安打で8点を奪い、完勝した。一回、上ノ堀の適時二塁打で先行し、四回に井川の適時二塁打で勝ち越し。薩南工は4投手で継投したが踏ん張りきれなかった。

◇鴨池市民
▽3回戦

鹿児島	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
鹿屋中央	2	0	1	0	0	0	1	0	×	4

⑬…鹿屋中央が鹿児島に競り勝った。同点の七回、2死二塁から折尾の適時三塁打で勝負を決めた。鹿児島は五回に二つのスクイズで追いついたが、追加点が取れなかった。

樟南	0	2	0	2	0	5	1	0	10
川内	0	1	0	0	0	2	0	3	

（7回コールド）

⑭…樟南が中盤に大量得点しコールド勝ちした。六回には長沢の本塁打などで5点を加点。川内は二回に猪之鼻の本塁打で1点、六回も2点を返して反撃したが、攻めきれなかった。

きょうの試合 ―左が一塁側

◇平和リース
▽3回戦
鹿児島情報―大　島（10　時）
鹿児島実―鹿　屋工（12時30分）
◇鴨池市民
▽3回戦
鹿児島城西―鹿屋農（10　時）
れいめい―枕　崎（12時30分）

速報は熱球ダイヤル
鹿児島大会速報
0570・01・7289
→メッセージの後に
大会番号「48＃」を押す